

ニュースレター

いりおもでの森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成20年7月発行 NO:14号



「ツアーガイド講習会」を開催

沖縄森林管理署及び西表森林環境保全ふれあいセンターが主催する「ツアーガイド講習会」を、5月22日（木）西表島の竹富町離島振興総合センターで、環境省石垣自然保護官事務所、竹富町商工観光課、西表島エコツーリズム協会などの協力を得て開催しました。また、6月20日には追加の講習会を実施し、受講者総数は52名となりました。

講習会は、西表島の森林環境教育の拠点として、仲間川支流（北舟付川）に隣接するマングローブ林内に設置した木道（延長153m）を利用してツアーガイドを行うガイドさん達を対象に、今回、初めて実施したものです。

講習内容は、自然公園法、国有林の保護林制度及びエコツーリズムについてなどのツアーガイドの一般的知識に併せ、木道利用に当たっての注意事項など多岐にわたり、ガイドのスキルアップにも役立つことから熱心に受講されていました。今回、受講者には木道の「利用許可証」を交付し、安全な木道の利用と希少野生動植物種などのモニタリングに協力していただくこととしています。



主催者挨拶する沖縄森林管理署長



西表島エコツーリズム協会伊谷事務局長



熱心に聴講する受講者



環境省刈部自然保護官

平成20年度西田、ヒナイ川の利用状況調査 (6月分) 報告

西田川とヒナイ川の5月期利用状況調査を10日(火)、12日(木)にそれぞれ実施しました。結果は、西田川では、カヌーツアーが1組(ガイド含め7名)、レンタルカヌーが1組(1名)計8名、ヒナイ川では、カヌーツアーが8組(ガイド含め34名)でした。



サンガラの滝に訪れたツアー客

新たなギンネムの萌芽抑制試験を開始

平成19年度より西表島の海岸林において、外来植物ギンネムの根株からの萌芽を抑制するため、ゴムシートによるマルチングを行ってきたところです。その試験結果としては、海岸前線部のマルチング株で8割強、調査プロット全体でも5割弱の発生が見られ、抑制の困難さを思い知らされることとなりました。

このような昨年度の結果を踏まえ平成20年度からは、薄い(0.18mm)シートを採用し根株に対し密閉度を高める。タッカ針の打ち込み数を増やしシート内で萌芽した茎の移動を防止する。地表部にかかるシート幅は余裕をもたせ裾に土を盛り上げて光を遮断する。以上の3点について、改善を図り経過を観察していく方針です。



マルチング前の伐り株



マルチング中



マルチング作業中



マルチング完了

木道周辺のモニタリングを開始

西表島の森林環境教育の拠点として、仲間川支流(北舟付川)に隣接するマングローブ林内に設置した木道(延長153m)周辺の環境変化について、継続観察するための調査区域を設定しました。

今後は、6ヶ月毎にモニタリングを行い、木道を設置したことに伴う環境変化を調査していくこととしています。



調査区域の設定



オヒルギの調査

森の巨人たち百選のオヒルギの モニタリング調査を実施

平成20年6月16日に、森の巨人たち百選に選ばれている浦内川上流のオヒルギに係るモニタリング調査を実施しました。このオヒルギは平成18年度に樹勢回復処置を実施しましたが、その後の大型台風による枝の折損や開空度から葉量の減少などがありました。

今回の開空度調査でも、6ヶ月前（平成19年12月測定）と同程度の数値となっており、樹勢の回復状況について、今後もモニタリングを実施していくこととしています。



根張りの周囲389 c m

船浦ニッパヤシのモニタリング調査を実施

平成20年6月17日に、国指定の天然記念物となっている船浦のニッパヤシのモニタリング調査を実施しました。今回の調査は、ニッパヤシの樹勢の状況把握、葉数、葉高について測定しました。

調査結果としては、ほとんどの株に新芽が発生し、視観的にも葉色が良く、葉高もますますの成長を示していることから、順調に生育しているものと思われます。



葉高の調査

西表島の樹木

今回は、今月が見頃のサガリバナを紹介します。

サガリバナ（サガリバナ科サガリバナ属）

学名：Barringtonia rasemosa

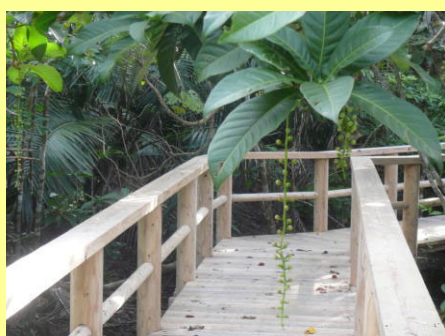
分布 / 琉球（奄美大島以南、石垣島、西表島等）、台湾・
中国大陸南部から旧世界の熱帯に分布

生育環境・形態など

高さ10m、径40cm程度までになる常緑小高木で、一般にはマングローブのすぐ後方の湿地に生える。枝には葉痕が

著しい。葉は枝端に集まり、ほとんど葉柄はない。倒卵状長楕円形、波状または鈍鋸歯縁、花は6～7月に白色または薄い紅紫色の総状花序が名前のとおり下がる。

花は夜開いて朝には落ちることから、西表島では、早朝にカヌーツアーやトレッキングツアーが行われているところもある。



新設した木道でもサガリバナが見られる



前回（ニュースレターNO：13）の『ハシカンボク』の写真は、西表島エコツアーリズム協会事務局の茂木紀夫さまの写真を使用させていただきました、ありがとうございました。

西表島カヌー組合が「救助訓練」を開催

6月13日（金）西表島カヌー組合（川満晃弘組合長）がピナイサーラの滝壺で人命救助の現場対応訓練を実施し、カヌー組合員、警察署、消防団員、森林管理署、当センターなどから総勢22名が参加しました。



訓練は、先ず、講師から頭部損傷、腕骨折等に対応した三角巾の使い方など簡単な応急措置を教った後、ツアー中に滝壺でケガ人が出たとの想定で行われました。参加者は、

緊急連絡先の確認、救助者自らの安全確保、応急措置の確認などを打ち合わせ、滝壺に飛び込み救助訓練に掛かりました。滝壺でのケガ人の収容、搬送、応急措置まで一通り終わった後、パーティカルストレッチャー（担架）を使用し、約



500m離れたヒナイ川のカヌー係留所まで搬送しました。ケガ人役には、体重が少々軽目の祖納森林事務所稲員（いなかず）森林官がなりましたが、それでも6



名で悪戦苦闘しながら搬送しました。カヌー係留所からは救助用のカヌーにケガ人を乗せ固定し、搬送においてもケガ人に支障が無いかを確認しながら、マーレ川にあるカヌー置き場まで搬送して現場訓練を終了しました。その後、船浦のときめきホールで昼食と反省会を行いました。反省会では参加者全員から感想が発表され「ケガ人を出さないようガイドしたい」「搬送中の自らの安全確保」「ハブ、蜂に対応した訓練



が必要」などの意見が出されました。最後にカヌー組合の今後の安全への取り組み方向が示され訓練が終了しました。

このような、カヌー組合の安全に対する熱心な取り組みで、安全かつ楽しいガイドツアーが行われるものと思います。参加された皆さん本当にお疲れ様でした。

林野庁 九州森林管理局 西表森林環境保全ふれあいセンター

〒907-0004 石垣市字登野城55-4 石垣地方合同庁舎内

TEL:0980-88-0747 FAX:0980-83-7108 URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>